

学生の皆さまへ

約3週間の「臨時休業期間」が5月6日をもって終了しました。休業中、皆さんはどのような日々を過ごされていたでしょうか？ 初めて独り暮らしを始めた方は、きっと大きな試練の時であったでしょう。よく頑張りました。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大も第2のフェーズに入ったようですが、山口県においては、5月5日より緊急事態宣言の延長に伴い、これまでの「生活維持のために必要なもの等を除く外出自粛」については解除されましたが、引き続き3密（密閉・密集・密接）となる場所への移動については自粛が求められています。特に、夜の繁華街や飲食店等への外出やアルバイトや県外への移動は控えるようにお願いします。

山口県立大学では、5月11日から基本的にWebを活用した「遠隔授業」を実施いたします。これに先駆けて5月7～8日に遠隔授業の接続ガイダンスを実施したところですが、それぞれのIT環境にも若干バラツキがあり、教員も学生もその新しい方に慣れるまで何かとご不便・ご不自由をおかけするかもしれません。お互いに辛抱強く、地道に工夫・改善をしながら教育・学習体制を整えて行きたいと思っておりますのでどうかご協力をお願いします。

先日、友人がドイツのメルケル首相の感動的なメッセージを届けてくれました。

「緊急事態の時にこそ、お互いに近くにいたいものです。しかし、コロナウイルスは、思いやるが故に、お互いに距離をとることを強いるのです。このことは、大変きついことです。

誰ひとり孤立させないこと、声かけと希望の必要な人々のお世話をすることも重要になってきます。私たちは、家族として、また社会として新たな相互扶助の形を見いだすでしょう。

今でも、既にウイルスとその社会的影響に対抗する創造的な形態が出てきています。私たちは皆、好意と友情を示す今までと別の方法を見つけなければなりません。まだまだ多くの可能性があるとは私は確信しています。私たちがお互いを独りにさせないことを社会として示すことになるでしょう。」

このメッセージが届いた頃、偶然にも本学の斉藤教授から、OPK（オンライン・ペチャクチャ）という学年を越えた「おしゃべりミーティング」の場を開設しましたという報告がきました。

そこには山口に来たばかりで不慣れな新生を元気づけようという先輩たちが参加してくれたそうです。さらに、それにWebで参加した学生の皆さんから、こんどは先生たちの入っていない「学生のしゃべり場」を創りましょう、という新提案がなされました。

県大生も、「好意と友情を示す今までと別の方法」を創り出そうとしています。

山口県立大学長 加登田 恵子